

花雨を窓にわびぬる籠居こもりや琴とれば音のしめりからなる

起 雲

春明けや仰げばかすむ天地に花とわれとのうたの領かな
天つ女がけはひの料とかしこみて匂ふに似たり春の草花

◎短歌募集

△課題 隨意

△〆切 毎月末日

△發表 本誌上

△賞品 三光には粗景を呈す

△選評 眞宮起雲

△投稿 用紙は隨意にて左記の所に送らるべし

但添削及返稿を要せらるゝ方は往復はがき

又は切手封入にて送られたし。

「伊勢國白子局區内みどり短歌會」

第二十回俳句端書集

大分

岡山

長野

仙臺

川越

川越

春月

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

人

長閑さや羊を追ひつ牧場まで
 遠山の薄紫や夕ひばり
 朝風の袖につめたき梅見かな
 青柳や漁翁はいまだ歸らざる
 菜の花や紙漉小屋に鷄の鳴く
 岩蔭に宛かくれぬ残る雪
 道連の殖えて嬉しき花見かな
 重さうになりて夜に入る柳かな
 鉛白を買ふて戻るや月おぼろ
 一貫の錢を泥手に覗賣り
 雨一夜二夜つゞきし初蛙
 江にかすむ舟四五艘や歸る雁
 一群は女ばかりや歳がり
 雲水に物問ふて見る日永かな
 若草や誰が休らひし尻の跡
 鐘つゝむ霞の裏や寛永寺
 大名の行列つゞく霞かな
 藻鹽焼く煙りも淡し春日和
 出代の女にすゑぬ二日灸
 踏つぶす椿數多や寺の庭
 功名の物語りせよ春の雨
 乳母車桃の林に引き入れて
 姿見に八重の櫻や理髮床

甲	大	靜	信	東	近	遠	下	横	群	熊
州	阪	岡	州	京	江	州	總	濱	馬	本
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
泉	き	樂	耕	春	古	愛	梅	醉	文	天
岳	よ	水	村	綾	杉	水	泉	月	久	外

夜深くつめたき石や春寒し
 春寒し別れの酒を暖むる
 不意と顔出して恥かし雲の朝

三光

天 雲雀野や夢踏む人のそこやこゝ
 地 蛙飛んで湖に動きぬ倒不二
 人 捨てられて道端に咲く菜花かな

追加

濡れて行く絹の脚絆や春の雨
 鎌肩に小牛をつれて夕かすみ
 賣物になるや老婦が桃の花

無一庵奇零

三十四

栃木 さだ子

埼玉 同

長野 静雅

東京 同

大分 同



世の中の横幅しらぬ燕哉

柳 居

妻にしも幾人思ふ櫻狩

破 笠